

平成29年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	豊かな心をはぐくみ生き方の自覚を促す道德教育の推進 ～心あったか事業～
事業実施代表者名	北海道教育大学附属旭川小学校副校長 米津 理臣
実施附属学校名	北海道教育大学附属旭川小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>道德性検査(新道德性検査HUMANⅢ)を年度の初めに行い、児童の道德性の実態や傾向を客観的に把握し、学校全体や各学年・学級における道德教育、学級経営、児童理解等に活用することにより、以下のような、本校の道德教育研究や教育課程の改善等を図っている。</p> <p>1 12年道德 12年道德の実践においては、幼・小・中の12年間を見通し、各学校間や家庭・地域との連携を図った道德教育の充実を目指しており、発達の段階を踏まえた道德性、重点領域の設定、幼・小・中12年間を見通した道德教育の指導計画の作成や、共通体験を起点とした道德の時間の展開を推進するに当たり、本道德性検査を活用し、改善等を図っている。</p> <p>2 教育実践研究 道德教育の実践研究においては、本年度も含めて過去4年間の本道德検査の結果を活用・反映し、実践を積み重ねている。</p> <p>3 各学年・学級経営等への活用 本道德検査の結果から、重点となる道德性(「道德の4つの視点」)をとらえ、各学年・学級における道德教育の年間計画に反映させ、主に道德の時間を中心に、本校の児童の道德性を養っている。</p>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>○ 上記、1～3の教育活動全体を通じた道德教育を積み重ねてきたことにより、道德性が全国平均より望ましい傾向にある内容項目数が多くなってきている。</p> <p>● 本校教職員のアンケートからは、「道德の4つの視点」について、「十分に育っているとは言えない」と感じている教職員が多いことから、各学年・学級におけるカリキュラム・マネジメントも視野に入れた実践に取り組む必要がある。</p> <p>● 上記、1～3の教育活動を行うことにより、児童は、道德的価値についての知識や理解については向上しているが、道德的実践力について十分に養われるよう、事前・事後の活動と十分関連させて指導に当たる必要がある。</p>
今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)	<p>今後も、継続して道德性検査の結果を分析し、道德性や道德的実践力を養うことができるよう、以下の点について、教育活動全体で取り組む必要があると考えている。</p> <p>○ 道德教育(特に、本校で設定した重点項目)と関連付けた新教育課程の編成</p> <p>○ 事前・事後の活動とのつながりをより意識した授業改善</p> <p>○ 実態に応じた各学年・学級におけるカリキュラム・マネジメントを意識した指導の充実</p>

<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年6月16日開催「教育研究大会」 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年6月16日「教育研究大会」研究紀要 ・平成29年6月19日HPで公開 ・平成29年7月6日北海道通信に掲載 ○ 平成29年11月2日開催「授業力向上セミナー」 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年11月7日HPで公開
--	--

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。